



第2部

岩手のくらし

第1章 健康・余暇

～健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を
楽しむことができる岩手～

全国と比べ脳血管疾患の死亡割合が高い本県

■ 健康に留意して生活している人は約8割

令和2年（2020年）県民生活基本調査によると、「健康に留意して生活している」人の割合は、79.1%となっています（図1）。

また、健康のために努めている行動の内容は、「睡眠を十分にとる」が最も多く88.2%、次いで「ストレスをためないように気分転換をする」の82.9%、「定期的に健康診断を受ける」の82.7%などとなっています（図2）。

■ 全国と比べ脳血管疾患の死亡割合が高い本県

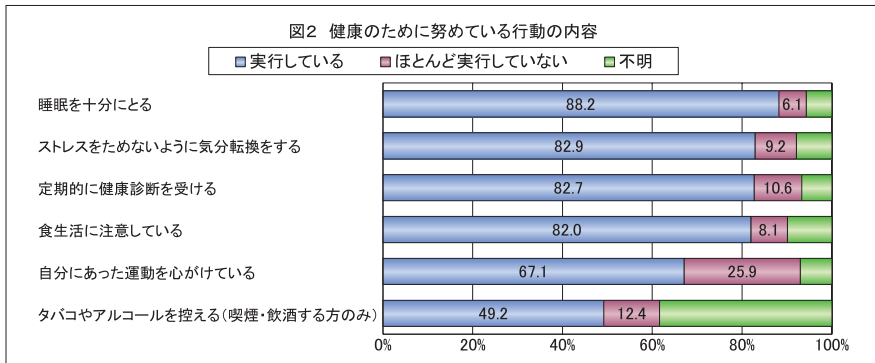
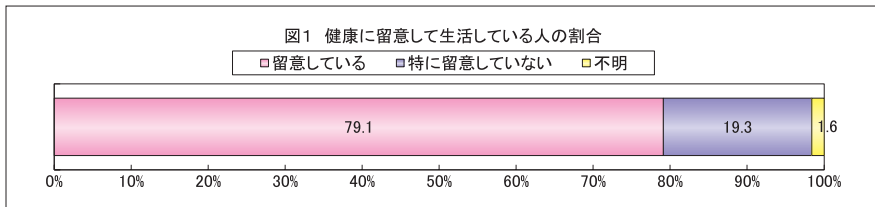
令和元年（2019年）の本県の死因別死亡割合は、がんが最も高く25.1%となっており、次いで、心疾患（注）、脳血管疾患、老衰、肺炎の順となっています。一方、全国では、がん、心疾患、老衰、脳血管疾患、肺炎の順となっており、本県は全国と比べ脳血管疾患による死亡割合が高くなっています（図3）。

また、がん、心疾患、脳血管疾患による人口10万人当たりの本県の死亡者数の推移をみると、がん、心疾患は全国と同様おおむね増加傾向で推移しています。脳血管疾患は、平成23年（2011年）を除いておおむね横ばいで推移しています（図4、5、6）。

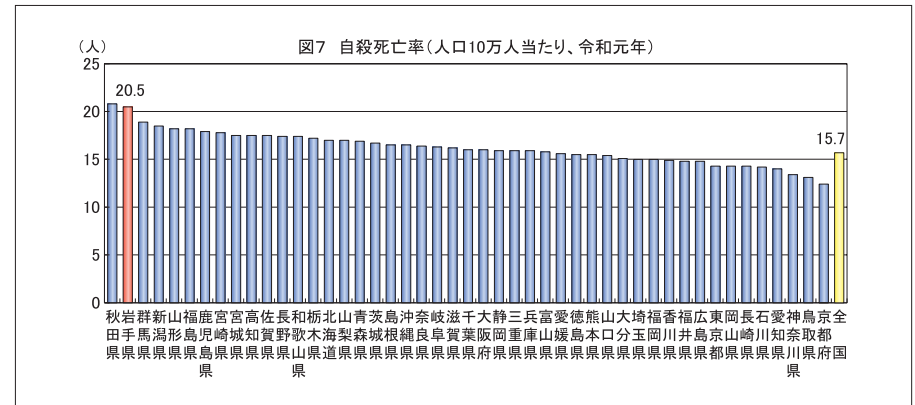
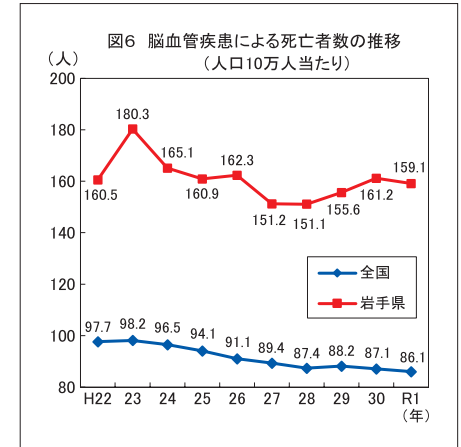
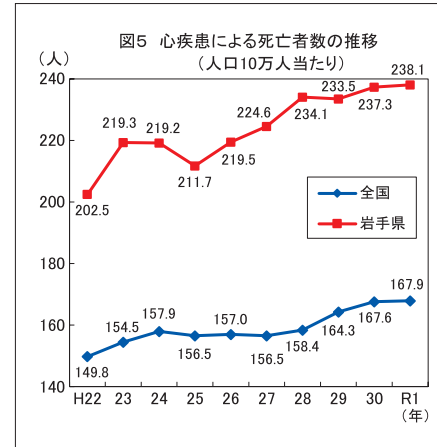
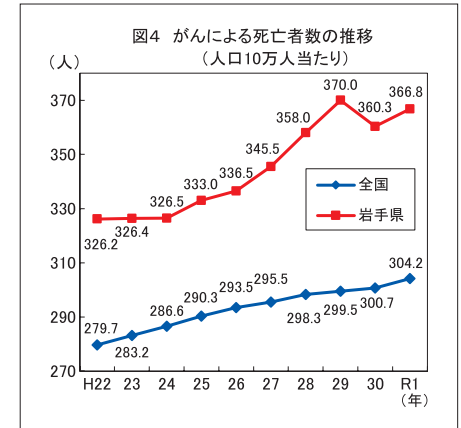
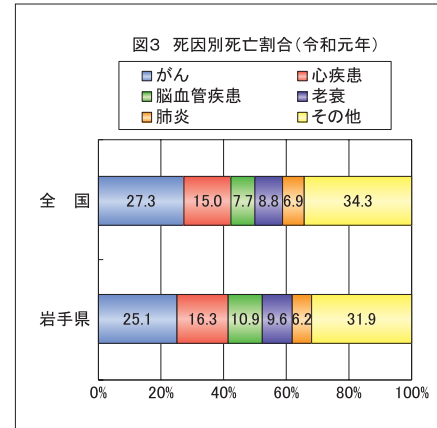
（注）心疾患は高血圧性心疾患を除く。

■ 自殺死亡率は全国2位

本県の令和元年（2019年）の人口10万人当たりの自殺死亡率は20.5人で、全国平均の15.7人を上回り、全国2位の高さとなっています（図7）。



以上資料：県ふるさと振興部「令和2年県民生活基本調査」



以上資料：厚生労働省「人口動態統計」

医療施設従事医師数は全国平均を下回る

■ 病気やケガの際に大病院ではなく診療所（開業医）で受診する人の割合は7割弱

令和2年（2020年）県民生活基本調査によると、病気やケガなどで医療機関を受診するときに「どちらかと言えば診療所（開業医）に行っている」人の割合は69.7%で、「どちらかと言えば医師や診療科が多い大きな病院に行っている」人の24.9%を上回っています（図1）。

また、大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について、令和2年の「知っている」人の割合は59.0%と「知らない」人の36.4%を上回っています（図2）。

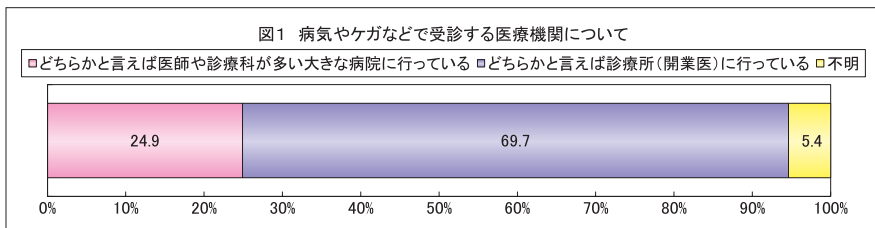
■ 医療施設従事医師数は全国平均を下回る

平成30年（2018年）の本県の医療施設に従事する医師数は、人口10万人当たりで202人と全国平均の247人を下回っており、全国順位は43位となっています（図3）。

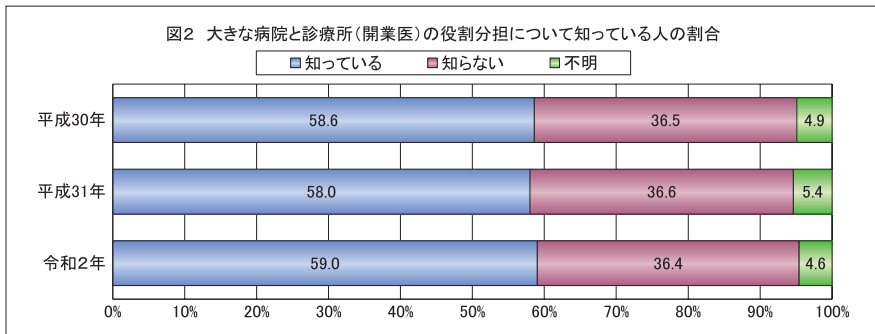
また、看護師及び准看護師数は、人口10万人当たりで1,335人と全国平均の1,205人を上回っているものの、全国順位は25位となっています（図4）。

■ 県内看護師等学校養成所卒業者の県内就職率は65.7%

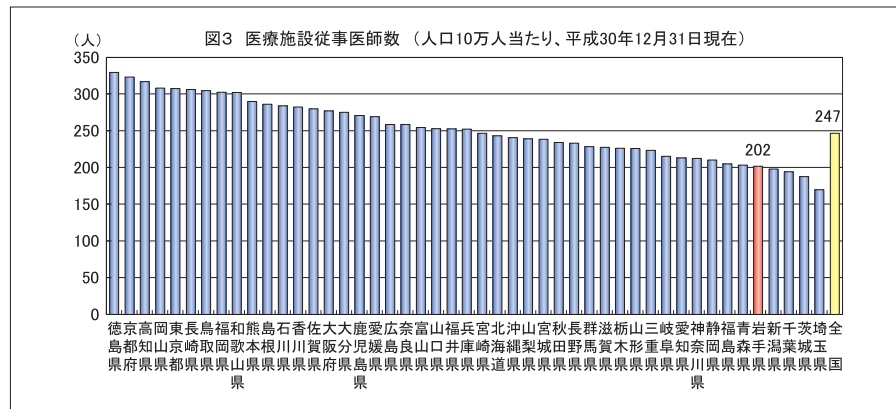
令和元年度（2019年度）に県内の看護師等学校養成所を卒業し、看護師又は准看護師として就業した者のうち、県内に就業した者の割合（県内就職率）は、65.7%と全国平均の72.5%を下回っており、全国順位は33位となっています（図5）。



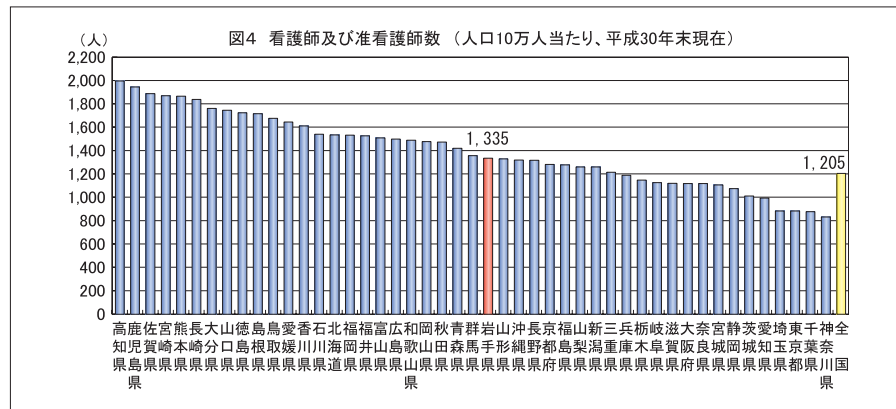
資料：県ふるさと振興部「令和2年県民生活基本調査」



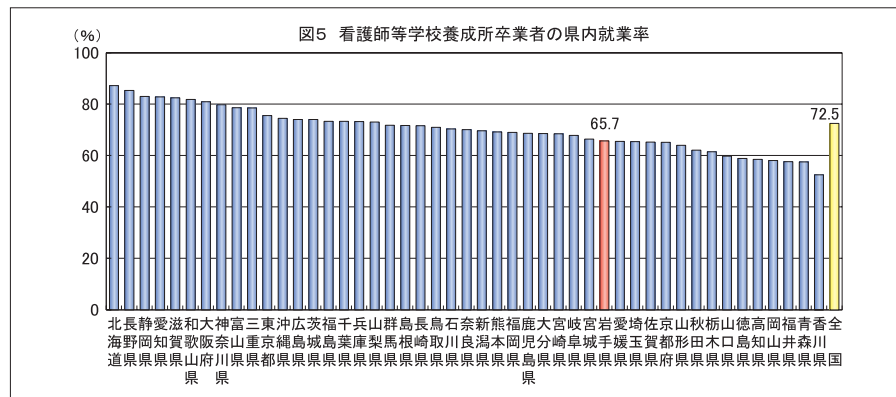
資料：偶数年 県ふるさと振興部「県民生活基本調査」
奇数年 県ふるさと振興部「県の施策に関する県民意識調査」



資料：厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師統計」



資料：厚生労働省「平成30年度衛生行政報告例」



資料：厚生労働省「令和2年度看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」

高齢者等のための設備のある住宅の割合は全国を上回る

■ 住み慣れた地域で安心して生活できる環境についての重要度は県全域で高い

令和2年（2020年）県の施策に関する県民意識調査によると、「介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と意識している人の割合は、県計で83.2%となっています。広域振興圏別では、重要な割合が最も高いのが県央で85.1%、最も低いのが沿岸で79.8%となっています（図1）。また、満足（「満足」＋「やや満足」）と意識している人の割合は、県計で22.8%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の25.2%を下回っています。広域振興圏別では、不満の割合が最も高いのが県北で30.3%となっています（図2）。

■ 高齢者等のための設備のある住宅の割合は全国を上回る

平成30年（2018年）住宅・土地統計調査によると、本県の高齢者等のための設備のある住宅の割合は54.3%と全国平均の50.9%を上回っており、全国順位は14位となっています（図3）。

また、本県の高齢者等のための設備状況別住宅の割合は、「道路から玄関まで車いすで通行可能」以外全国平均を上回っています（図4）。

■ 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の登録者数は着実に増加

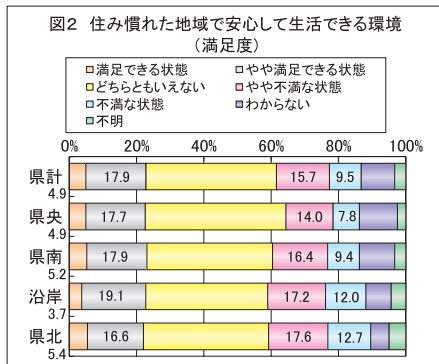
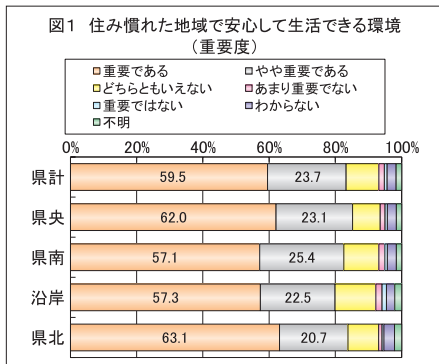
本県の令和2年（2020年）3月末現在の社会福祉士（注1）の登録者数は前年より158人増え、2,352人となりました。また、介護福祉士（注2）、精神保健福祉士（注3）の登録者数はそれぞれ20,459人、870人となり、平成23年（2011年）からの推移をみると、いずれも着実に増加しています（図5）。

- （注1）社会福祉士：身体的・精神的な障がいなどのため日常生活に支障がある人に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する資格者
- （注2）介護福祉士：身体的・精神的な障がいなどのため日常生活に支障がある人に介護を行い、介護に関する指導を行う資格者
- （注3）精神保健福祉士：精神障がい者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行う資格者

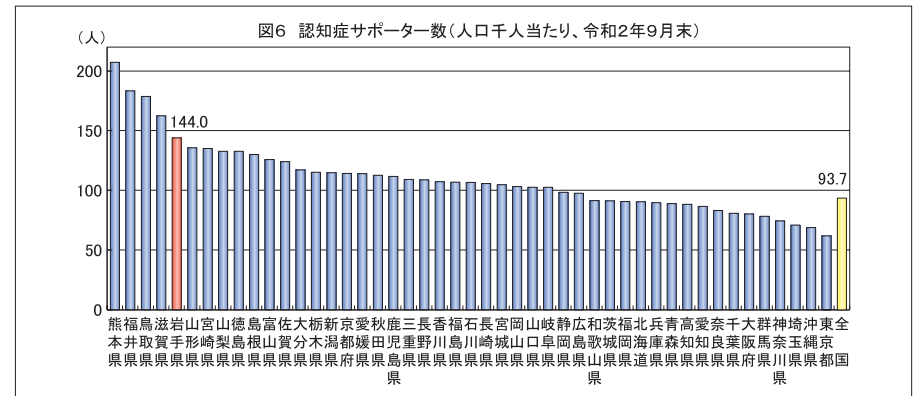
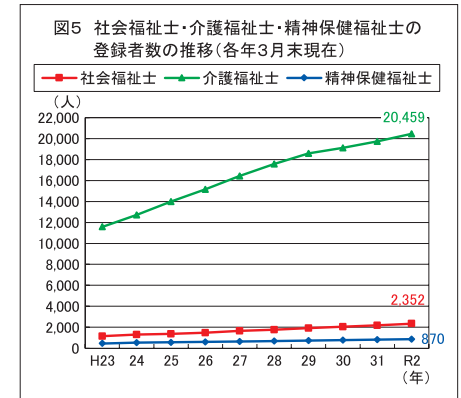
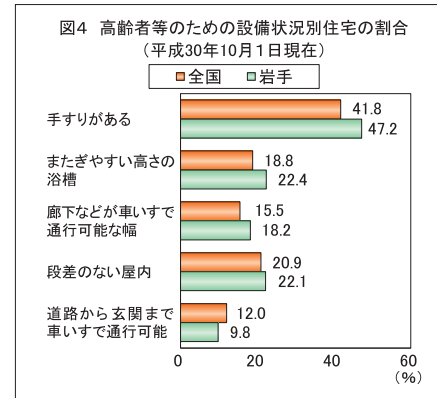
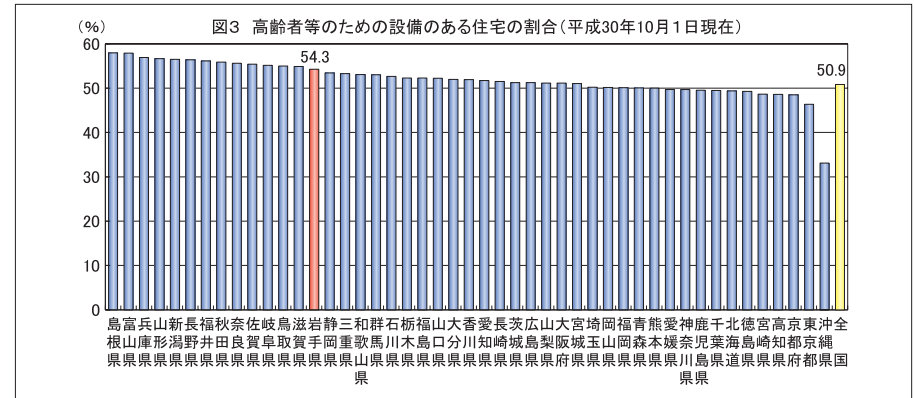
■ 認知症サポーター数は全国を上回る

本県の令和2年（2020年）9月末現在の人口千人当たりの認知症サポーター（注）数は144.0人と全国平均の93.7人を上回っており、全国順位は5位となっています（図6）。

（注）認知症サポーター：特別な職業や資格ではなく「認知症サポーター養成講座」を受けて、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする支援者



以上資料：県ふるさと振興部「令和2年県の施策に関する県民意識調査」



資料：全国キャラバン・メイト連絡協議会「認知症サポーターの養成状況」

人口当たりの映画館数は全国平均を上回る

■ 日常的に文化芸術に親しむ機会に対する満足は不満を若干上回る

令和2年(2020年)県の施策に関する県民意識調査によると、「日常的に文化芸術に親しむ機会があること」について、重要(「重要」+「やや重要」と意識している人の割合は、県計で44.0%となっています(図1)。

また、満足(「満足」+「やや満足」と意識している人の割合は、県計で20.8%となっており、不満(「不満」+「やや不満」)の16.2%を若干上回っています。なお、広域振興圏別の満足割合は、県央で24.8%と最も高くなっています(図2)。

■ 人口当たりの映画館数は全国平均を上回る

平成30年度(2018年度)の人口100万人当たりの常設映画館数をみると、本県は13.7館で全国10位となっており、全国平均(11.6館)、東北6県平均(9.7館)をともに上回っています(図3)。

■ 総合型地域スポーツクラブを育成する市町村割合は全国平均を上回る

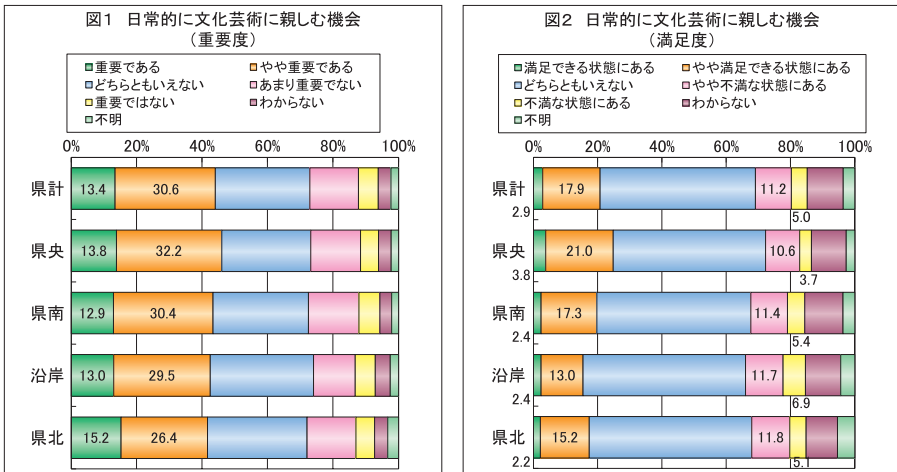
令和元年度(2019年度)総合型地域スポーツクラブ(注1)育成状況調査によると、本県のスポーツクラブのある市町村の割合は90.9%で全国15位となっており、全国平均(80.5%)を上回っています(図4)。

また、平成28年(2016年)社会生活基本調査によると、本県のスポーツの行動者率(注2)は59.1%と、全国平均の67.7%を下回っており、その差は年齢が高くなるほど大きくなっています(図5)。

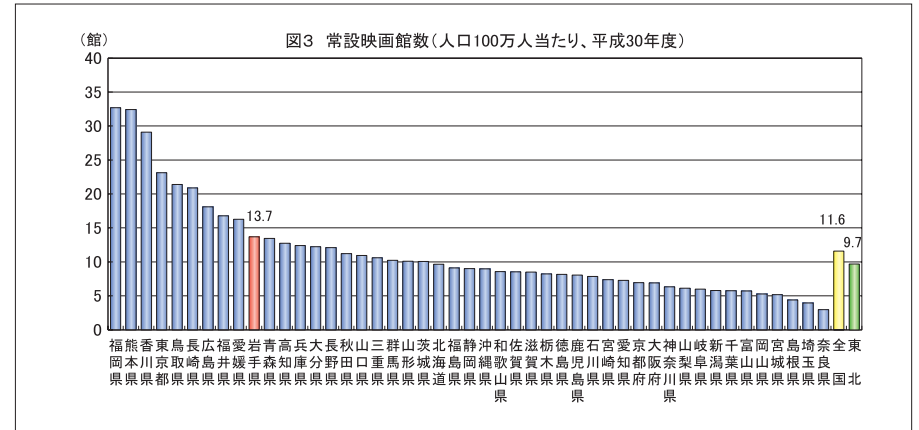
(注1) 総合型地域スポーツクラブ

: 人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多様)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

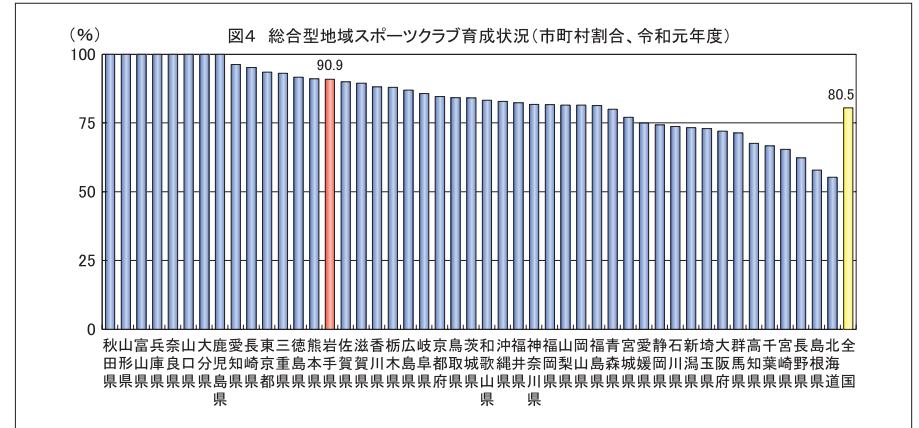
(注2) 行動者率: 15歳以上人口に占める過去1年間(平成27年10月20日~平成28年10月19日)に該当する種類の活動を行った人(15歳以上)の数の割合。



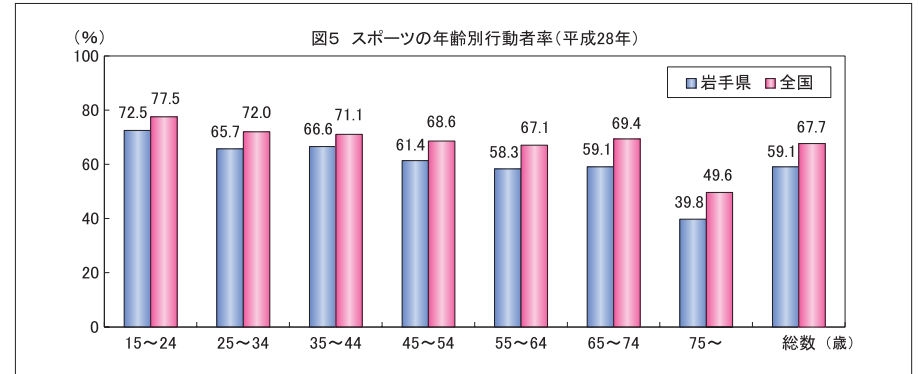
資料: 県ふるさと振興部「令和2年県の施策に関する県民意識調査」



資料: 厚生労働省「平成30年度衛生行政報告例」、総務省統計局「人口推計」



資料: スポーツ庁「総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」



資料: 総務省統計局「平成28年社会生活基本調査」

生涯学習に取り組んでいる人の割合は約4割

■ 生涯学習に取り組んでいる人の割合は約4割

令和2年(2020年)県民生活基本調査によると、生涯学習に取り組んでいると回答した人の割合は、42.7%となっており、取り組んでいると回答した人の取組内容(「週に数回程度」+「月に数回程度」+「年に数回程度」)は、「スポーツ・レクリエーションや健康の維持・増進」が65.6%と最も多く、次いで「趣味や教養」の56.9%となっています。

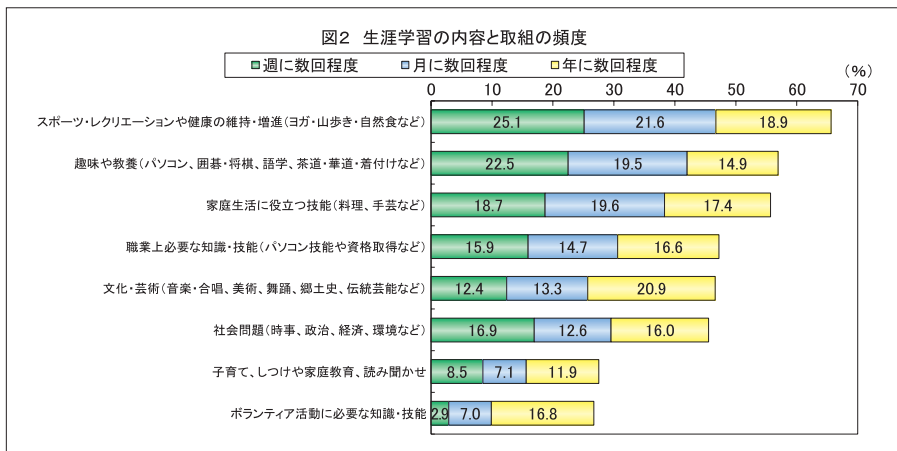
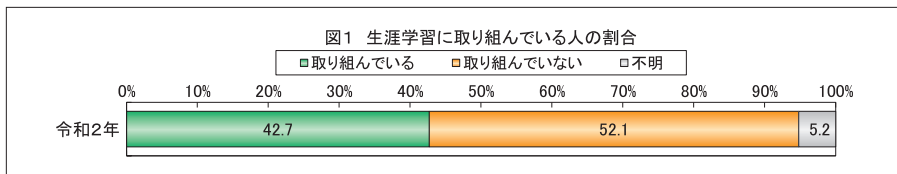
また、生涯学習で身に付けた知識・技能や経験をどのようなことに生かしているかについて、「自分の人生をより豊かにすること」が68.0%と最も多く、以下、「健康の維持・増進」の53.2%、「家庭生活」の47.6%などとなっています。

一方、生涯学習に取り組んでいないと回答した人の割合は、52.1%となっており、理由としては、「仕事や家事が忙しくて取り組む時間がないから」が48.0%と最も多く、次いで「関心がないから」の31.5%となっています(図1、2、3、4)。

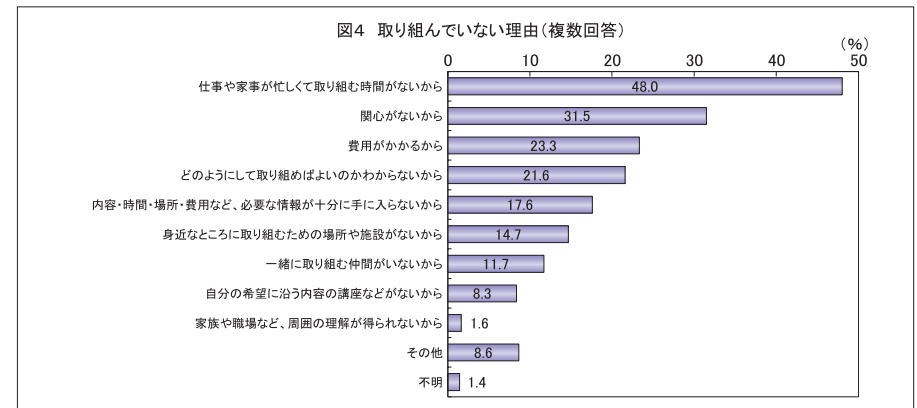
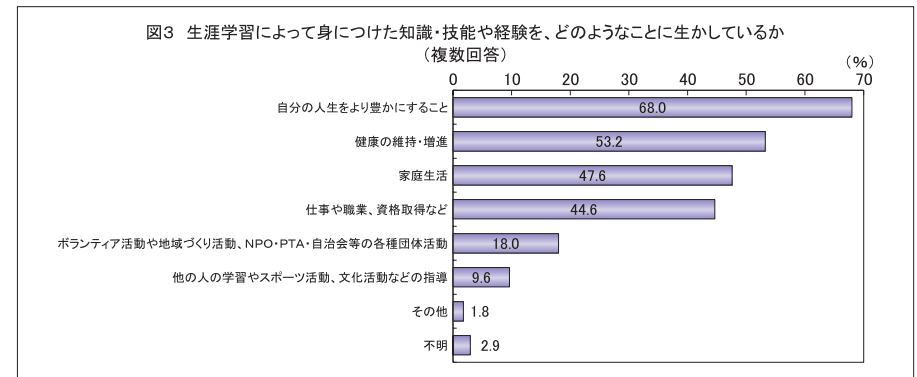
■ 学びたいときに学べる環境に対する満足度は県央で高い

令和2年(2020年)県の施策に関する県民意識調査によると、「学びたいと思った時に必要な情報が手に入り、自分に適した内容や方法で学ぶことができる環境にあること」について、「重要(「重要」+「やや重要」)と意識している人の割合は、県計で64.3%となっています(図5)。

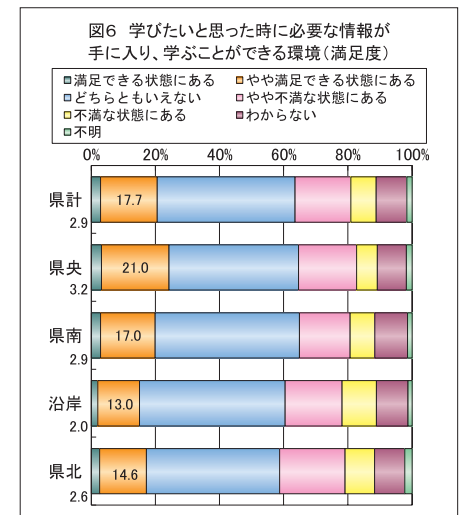
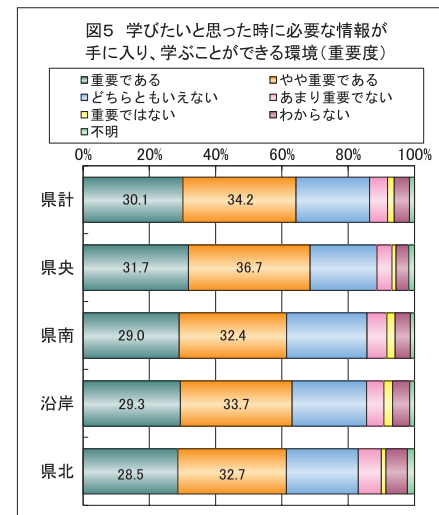
一方、満足(「満足」+「やや満足」)と意識している人の割合は、県計で20.6%となっており、特に県央では、満足の割合が24.2%と他の広域振興圏と比べて高くなっています(図6)。



以上資料：県ふるさと振興部「令和2年県民生活基本調査」



以上資料：県ふるさと振興部「令和2年県民生活基本調査」



以上資料：県ふるさと振興部「令和2年県の施策に関する県民意識調査」